

学習ポイント 1

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

類義語はいつでも置き換えられるとは限らず、対義語も比べる観点や文脈によって変わります。この教材では、言葉の組を覚えるだけでなく、文中の意味・語のつながり・表現の強さを確かめます。語群から選ぶ問題と、複数の正しい答えを認める言い換え問題を通して、説明文や意見文を正確に読む力を養いましょう。

目標 類義語と対義語を、文脈と比較の観点に基づいて判断する。／似た語の意味の範囲や使い方の違いを説明する。／意味を保った言い換えを行い、適切な漢字で表す。

1 類義語は共通点と違いを捉える

類義語は意味が似ている言葉です。ただし、意味の範囲、使う相手、文の形まで同じとは限りません。語群から選ぶときは、まず下線部の意味を短く説明し、近い意味の語を探します。その後、実際に置き換えて自然に読めるかを確認しましょう。語の一部が共通することや、同じ話題でよく使うことだけでは、類義語とは判断できません。

例1 「決意」と「決心」は、何かをしようと心を決める点が共通する。「参加を決意した」は「参加を決心した」と言い換えられる。

例2 「開始」と「着手」は始める点が近い。ただし「会議を開始する」と「作業に着手する」では、結び付く助詞が異なる。

例3 「説明」と「報告」はどちらも伝える行為だが、前者は分かるように述べること、後者は経過や結果を知らせることに重点がある。

学習ポイント 2

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

2 対義語は比べる観点をそろえる

対義語は、同じ観点で比べたとき、意味が反対または対照的になる言葉です。数量、時間、立場、方向など、何を比べるのかを先に確かめます。片方が数量、もう片方が気持ちを表すような組合せでは、対比の軸がずれます。また、「～でない」と否定するだけでは、反対側の状態を必ず表すとは限りません。

例1 「増加」と「減少」は、数量がどう変化するかという観点で対になる。人数が増えることと、減ることを比べる。

例2 「輸入」と「輸出」は、国境を越えて物がどちらへ動くかに注目した対比。同じ取引でも、立場を変えると呼び方が変わる。

例3 「賛成」と「反対」は意見の向きの対比。「賛成しない」人には、まだ判断を保留している人もいます。

学習ポイント 3

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

3 多義語は文ごとに意味を決める

一つの語が複数の意味をもつことを多義といいます。多義語の類義語や対義語は、その文でどの意味に使われているかによって変わります。辞書に書かれた最初の意味を、すべての文に当てはめてはいけません。名詞との組合せや前後の説明を手がかりに、具体的な意味を絞ってから答えましょう。

例1 「高い位置」の反対は「低い位置」。「高い値段」の反対は「安い値段」。同じ「高い」でも比べるものが違う。

例2 「明るい部屋」の「明るい」は光の多さを表す。「事情に明るい」の「明るい」は、よく知っていることを表す。

例3 「新鮮な野菜」は採れてから時間がたっていないこと。「新鮮な考え」は、今までにない新しさを感じさせること。

4 文章の論理を支える対比を読む

説明文や意見文では、対になる語が文章の構成を示す手がかりになります。

「一方」「これに対して」「しかし」などの前後を読むと、何を比べているかが見えます。難しい語を見つけたら、具体例と結び付けて理解しましょう。対義語を答えた後に、その語が本文のどの内容をまとめているのか説明できることが大切です。

例1 「抽象的な目標」は大まかな考えを示す。「具体的な目標」は、行動や数値などを示してはっきりさせる。

例2 「主観的な判断」は個人の感じ方や考えに基づく。「客観的な判断」は個人だけの思いに寄らず、事実などに基づく。

例3 「原因」と「結果」は、ある出来事を生じさせたものと、生じた事柄の関係。
「対になる語」でも、単なる善悪の反対ではない。

学習ポイント 4

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

5 語感と結び付く言葉確かめる

似た意味でも、ほめる響きと批判的な響きが分かれることがあります。また、自然に結び付く名詞や助詞も異なります。辞書の類義語欄は候補を知る手がかりですが、どの文でも入れ替えられる一覧ではありません。言い換えでは、意味が近いことに加え、元の文の評価や文法を保てるかを調べましょう。

例1 「慎重」は、よく注意して判断すること。「臆病」は、必要以上に恐れがちな性質をいう。注意深さだけで同じ評価にしない。

例2 「平易な説明」は、分かりやすい説明。「容易な作業」は、行うのがたやすい作業。何の難しさを表すかに注目する。

例3 「簡潔」は必要な内容を短くまとめること。「単純」は仕組みなどが複雑でないこと。短い文章でも、内容が単純とは限らない。

6 自由な言い換えは条件で確かめる

語群のない問題では、正しい答えが一つとは限りません。①元の文の中心的な意味を保つ、②前後と自然につながる、③指定された字数や品詞を守る、という条件で判断します。解答例と違う語でも、条件を満たせば正解になります。逆に、辞書に類義語として載っていても、その文では意味が変わったり、不自然になったりすることがあります。

例1 「提案に賛成する」は「提案に同意する」と言い換えられる。単に内容を「理解する」だけでは、支持する意味が消える。

例2 「資料を詳細に調べる」は「資料を詳しく調べる」と言い換えられる。漢語から和語にしても、文全体の意味は保てる。

例3 「長所を生かす」は「よい点を生かす」と言い換えられる。「特徴を生かす」では、よい点に限る意味が弱くなるので注意する。

使い方と参考資料

本教材の対象と採点について

A 基礎 → B 標準 → C 応用 → D 確認の順で取り組みなさい。A～Cは練習、Dは8問100点の確認テストです。

読み・語彙は小学校～中学校の既習事項を広く復習し、書き取りには高校受験対策の語も含めます。「中3」は利用の目安であり、各語が全国共通の中3新出漢字という意味ではありません。

書く欄は1マス9mm、罫線は1行10mmです。字数指定がない場合、余ったマスは空けて構いません。字数指定のあるマス目では、句読点も1マスに1字ずつ書きなさい。

本教材では、学校での学習を想定した標準的な読み・表記を練習します。辞書にある別読・異表記をすべて許容解とするものではありません。送り仮名の許容形や記述の言い換えは、解答解説の基準に従います。手書きの字形は、同じ漢字と判断できるかを確認してください。

設問・例文は、本教材のために作成したオリジナルです。出題頻度の統計や特定地域の入試傾向を示す教材ではありません。参考資料の例文・設問は転載していません。共通する語句は、別の文脈や出題形式で繰り返し確認する総復習として配置しています。

1 文部科学省 中学校学習指導要領 平成29年告示 国語

語彙を豊かにし、文脈に即して言葉を用いる学習と漢字学習の範囲を確認。中学3年の新出漢字一覧とは位置付けていない。

2 三省堂 中学校国語 家庭学習用資料 類義語 対義語 多義語

類義語・対義語・多義語の区別、比較の観点、文脈による使い分けという学習事項を確認。問題文は転載していない。

3 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 抽象

抽象の意味と具体・具象との対比を確認。

4 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 相対

他との関係によって成立する意味と、絶対との対比を確認。

5 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 平易

分かりやすさの意味、容易との類義関係、難解との対義関係を確認。

参考資料 続き

語義と学習範囲の確認

6 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 吟味

内容や質を念入りに調べる意味を確認。

7 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 勘案

複数の事情を考え合わせる意味を確認。

資料確認日 2026年10月8日。資料名を選ぶと参照ページが開きます。